

互助会員が座り込み

水俣病 補償 工場側はゼロ回答

さる二十五日被害補償金一億三千四百万円（一人あたり三百万円）の支払いを新日窒水俣工場に申し入れた水俣病患者家族互助会（会長渡辺榮蔵氏）では約束の三十日の工場側の文書回答を待たず、二十八日午後一時から会員約五十人が同工場正門前に座り込んで即答をせよとした結果、工場側はゼロ回答を行なった。

互助会の要求に対し工場側は「水俣病は同工場排水が原因といっているが、十二日の厚生省発表は水銀説については結論を下したが、病源と工場排水との関係は何ら明らかにしておらずこんど各省市連絡のもとに研究されることになっている。工場としては悲惨な互助会員の実情は判るが要求には応じられない」とつっぱねた。

これに対し互助会側は工場排水が原因とは明らかにされていないというが、それではなぜ工場は浄化装置やじゅん槽装置をするのか。また工場はこれらの措置が社会不安をのぞくためだというが逆に工場の従業員やその家族が水俣病になった場合を考えてほしい。と強く訴え、午後五時すぎ再び互助会代表が工場側石野次長と会い話し合いに入ったが結局ものわかれとなった。

このため互助会側は回答書を工場側に突き返し、さらに回答を求めるため工場保安要員に返却を依頼したがいれられなかったため、門内保安室に回答書を置き、老人や婦人をのぞいた全員の火をたいいて徹夜で座りこんだ。

なお三十日互助会は今へ強力に働きかける予定。